



2P) 大きなコーナー窓が特徴の『ひとつの家』の浴室。窓の配置や浴槽の設置方法を工夫することで、同じ大きさの浴室でも開放感のある雰囲気をつくる事が出来る。腰壁と床には諏訪鉄平石を使用。自然味のある素材感を味わえる浴室に仕上がっている。

3P左) 浴室と脱衣室が一体となった『共の家』の浴室。脱衣室との間の壁をガラス壁にし、両室とも壁と天井は青森ヒバの板で仕上げた。開放感と共にヒバの香りが楽しめる空間となり、心身共にリラックス出来る浴室に。

3P下) 浴室を南側に配置する事で十分な採光を得る事ができる。明るい浴室はカビの発生を抑え、木のお風呂にとって良い環境になる。



# 楽しみはやっぱり『木のお風呂』



## 10年の経験から 自信をもって

ホームページやコロボ通信などで既にお知らせをしていますが、平成17年からスタートした当社も今年で創立10年目を迎えました。木造建築専門の設計事務所としてスタートし、大工職人をはじめとした様々な職人の力を借りて、個性豊かな木の家をつくってきました。木の家をつくる上で大切にしていることは色々ありますが、木組みや素材の選択などと合わせて、木の家に合うアイテムについても時間をかけて納まりなどを積み上げてつくり上げてきました。オリジナル仕様としてご紹介しているウッドデッキや天窓、また、キッチンや洗面化粧台などをはじめとする家具なども様々な工夫を凝らしてつくってきました。そしてコロボの定番として自信をもってお勧めすることのできる『木のお風呂』についても40棟以上のお宅で製作させていただき、「木の香る優しいお風呂で、毎日お風呂に入るのが楽しみ」と話してくれる住まい手さんも多く、つくり手である私たちにとっても自慢のお風呂となっています。

現代の家づくりの中では、在来浴室と呼ばれる現場でつくる浴室はほとんど無くなり、住宅設備機器メーカーがつくるユニットバスを設置する事が当たり前となっています。ユニットバスは主にアパートやマン

ションに多く使われていましたが、防水の安全性や見た目の豪華さで戸建て住宅にも浸透し、あつという間に在来浴室をつくる住宅会社は少なくなってきました。性能や機能が良くなり低コストでつくる事が出来るユニットバスは優れた設備だと感じる反面、私たちがつくる木の家の中では少し違和感を感じてしまうのも事実です。素材や寸法の規格化の中で自由がなくなり、住まい手に合った浴室が提案出来ないことに加え、樹脂製品でつくられた浴室からは建材独特の匂いも気になります。そして湿気対策に関しては換気扇などの機械換気に頼るしかなく、コーキングや天井面がカビで覆われているといった話もよく聞かれます。

コロボでは、木の家に暮らしたい住まい手にとってお風呂とはどんな存在なのか？ また、毎日の暮らしの中でお風呂に求める快適性とは何か？ を優先に考え、その中で問題となる防水対策やメンテナンスについては独自の納まりと工夫で解決してきました。そして住まい手さんへお願いしている2つの簡単なルールを定める事で綺麗で長持ちするお風呂を提案し、快適な風呂時間を楽しんでいただいています。今回は10年の経験から自信をもってご紹介できる『木のお風呂』を特集し、新築のみならず、リフォームでの実例も合わせて個性豊かな木のお風呂をご紹介します。



## 壁手摺『風道のある家』



木のお風呂でもユニットバス同様に浴室内に手摺を設ける事が出来る。手摺の種類は問わないが、取り付ける壁にあらかじめ下地を入れておく必要がある。タイル面に手摺をつける場合は特に注意が必要で、後から取り付ける事が困難なため、将来用として下地を準備しておく事をおすすめしている。

## 石カウンター『素顔の家』



洗い場での様子を伺うと、意外と様々な意見を聞く事が出来る。椅子に座る人や座らない人。シャワーで体や頭を洗う人や浴槽内のお湯を使って洗う人など。決まりはないが、人それぞれの習慣があるのだと少し驚く。風呂桶を使う人は水栓の下にカウンターを設けると便利で使いやすいと好評なので、コロボでは御影石などでカウンターを制作している。



## 『サンの家』

洗い場と浴槽部分がFRPでつくられたハーフユニットバスを採用し、腰上の壁と天井に青森ヒバを貼った浴室。ハーフユニットバスは大手住宅設備会社などでも発売されているが、コロボでは日比野化学工業の製品を主に採用している。出入口の建具はドアと折戸タイプがセットとしてラインナップされているが、納まりを考慮して木製の引戸でも制作が可能となり、設計者の工夫次第で多彩な浴室をつくる事が出来る。ハーフユニットバスは防水面での安心感があるので、2階での設置が容易に出来るのが特徴。



## 『爽の家』

今月号で表紙を飾った『爽の家』の浴室。縦長の窓は上部が開閉式で下部がFIX窓の組み合わせとなり、写真では分かりにくいですがコーナー窓となっている。窓の組み合わせは坪庭への景観を重視したこと、換気を考慮して考えたデザインだが、大きな窓は開放的な雰囲気と共に光を浴室内にふんだんに取り入れ、カビの発生を抑える効果も期待できる。壁と天井には青森ヒバの本実板を張り、タイルは石目調の黒いサーモタイルの30cm角を採用した。タイルの大きさは洗い場と浴槽との跨ぎ寸法と関連し、30cmタイプの浴室は少し低めの寸法になり落ち着いた印象の浴室となる。



## 『結びの家』

壁と天井にサワラ板を使用。腰壁には25mmのモザイクタイル、床には20cmのサーモタイルを貼っている。この組み合わせは清潔感がある明るい印象となり、飽きのこない定番のコーディネートに。サワラ板は品のある木目に加えて艶があり、温かみのある雰囲気をつくってくれる。またヒバや桧と同様に水に強く、寿司桶の材料などとして馴染みのある人も多い木材。窓の形状や配置は浴室の雰囲気を決める上で大切な要素のひとつ。横長の窓を浴槽近くに設け、換気や採光の要素と合わせて安定感のある雰囲気を演出している。

定番は青森ヒバor  
サワラ板+アイデア

コロボでつくるお風呂は、主に天井と壁を木でつくり、腰壁と床をタイルや石で製作しています。壁と天井に使う木材は何でも良いわけではなく、カビの発生が少なく耐腐食性に強い木材である青森ヒバとサワラ板を使用しています。青森ヒバは我が家の浴室にも使用していて実績があり、すでに13年経過していますが天井面や壁面に目立ったカビや腐食はありません。また、ヒバは香りがとても良く、清涼感のある香り。心と体をリフレッシュさせてくれます。青森ヒバと同様にサワラも香りが良く、昔から風呂桶や寿司桶などに使用されているので馴染みのある人も多いようです。青森ヒバと比べて優しい色合いで艶もあり、温かみのある雰囲気を演出してくれます。

壁の板材に合わせて腰壁と床にはタイルや石材を使いますが、定番はサーモタイルと呼ばれる保温性のあるタイルを使い、触れてみると一般的なタイルと比べ、差は歴然です。ですがユニットバスの樹脂床に比べると冷たいと感じるので、足元が気になる方は慎重に選んでいただきたいと思います。タイルは大きさと色が様々あり、コロボでは主に30cmと20cmのタイルで、色は黒と白が定番です。30cmのタイルを選ぶ方は黒が多く、20cmのタイルを選ぶ方は白を

選ぶ傾向があり、全体のイメージと合わせて使いやすさも検討しています。個性派の浴室としては2.5cmや5cmのモザイクタイルを腰壁に貼ることもありますが、「目地が多くてお掃除が大変だよ」と一言アドバイスを加えています。浴室に雰囲気をもたせたい方は石を貼ることもあります。石の種類としては諏訪鉄平石(写真:ひとつの家)や伊豆石を使うことがあります。タイルに比べて表面の凹凸が大きく、これも「お掃除を考えてね」と一言加えています。タイルや石の他に、腰から床の部分だけがユニットバスになっている「ハーフユニットバス」を採用することもあります。タイルに比べ低コストで製作出来ることと、防水面から2階などに設置する場合に使えます。色やタイプの選択肢がなくサッパリとしたホワイトのみですが、ヒバやサワラ板との相性も良く人気のある浴室です。

『木の浴室』は住まい手の好みや使い勝手で様々な変化することが出来、ひと工夫する事で自分に合った浴室をつくる事ができます。風呂桶を置くカウンターを設け、かがまずに使える工夫をしたり、手摺を設けてバリアフリー化することも可能です。お風呂時間をより楽しく快適にする工夫やアイデアは十人十色。好みの素材やアイテムを選んで、自分たちに合った癒しの空間をつくってみてはいかがでしょうか。



## 我が家のお風呂をリノベする —そろそろ木のお風呂にしてみませんか?—

祖父母の住まいを引き継いだけど今の暮らしに合わない。中古住宅を購入したけどリフォームしたい。水まわりの床や壁が傷んできたので直したいなど、暮らしに関する要望は新築だけでなく様々な条件の中で存在します。その中で一番に要望が多いのは、水まわりのリノベーション。直接生活に結びつくキッチンや浴室などは、やはり自分たちの暮らしに合った形にしたいと考える方が多いと思います。水まわりのリノベーションと聞くと、まず初めに思いつくのが住宅設備機器メーカーのショールーム。ユニットキッチンやユニットバスなどが並び、当たり前のようにそれらの中から選んでいくものだと考えている方も多いと思いますが、ちょっと待って……。キッチンも浴室もその家のスペースや要望に合わせて製作する事が出来るんです。改築する家がハウスメーカーなどの場合、すでにユニットバスが取り付けられ、カビの問題で苦労したり、なんとなく味気なさを感じている方も多いと思います。ココラボでは新築だけでなく、既存のお宅でも木の良さを味わっていただきたいと考え、「木のお風呂にリノベする」を提案しています。お風呂工事のポイントや注意点をまじえながらご紹介したいと思います。



今年の夏に改修工事を行ったUさん宅の浴室。既存の浴室には大きな傷みや問題はなかったが、長年使用してきたため経年変化や出入り口枠の老朽化などがあり、憧れの木のお風呂へのリノベーションを決意した。既存の窓や下地などを上手く利用し、無理なく全体をまとめていく事が出来たため、工事もスムーズに進み、解体から完成まで約3週間の工期で行う事が出来た。完成した木のお風呂は、明るく優しい雰囲気に包まれる中にヒバの香りも加わって、心身ともに心地よいお風呂に生まれ変わった。

## ユニットバスから木のお風呂へ

浴室のリノベーションと言えば、少し前までは昔ながらのタイルなどで出来た浴室をユニットバスに変える工事でしたが、ココラボでは逆に、築30年程のハウスメーカーなどで設置されたユニットバスも含めて「木のお風呂に変えませんか?」と提案しています。つくり方も難しく、防水などの注意点もありますが、新築工事で培った10年の経験を活かし、木のお風呂へのリノベーションにチャレンジしていきます。



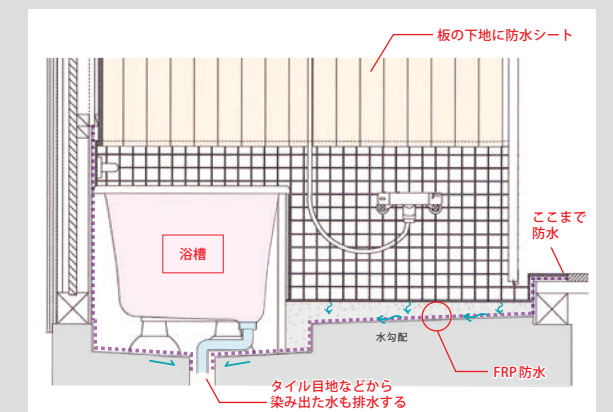
改修工事前。ユニットバスでつくられた既存の浴室は目立った傷みや欠損などはなかったが、時間の経過と共に所々に老朽化が見られた。また、床と壁がタイルでつくられていたため、浴室内の寒さや床の冷たさが気になっていた。

青森ヒバと白い石目調のタイルを採用し、明るく温かみのある浴室に。一番苦労したのは既存の窓位置と全体を無理なくまとめる事。窓の高さに合わせて浴槽や洗い場の高さを決め、最終的に脱衣室の床高さに合わせた。リノベーションの難しさは既存部分との取り合いをどうまとめるか。全く新しく変わるのではなく、完成して既存との調和が出来ていれば成功。

## 木のお風呂のポイント —防水工事—



新築時につくる木のお風呂も同様に、現場でつくるお風呂のポイントは防水工事。ココラボでは腰壁や床などのタイル下地にFRP防水を施し、壁と天井の板下地に防水シートと通気層を設けている。また、基礎をつくる際にも立ち上がり部分に止水板を挟み、二重構造での防水処置をしている。

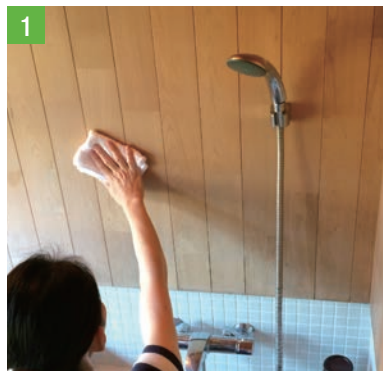




# 経年変化とメンテナンス

自然素材の木で出来ている浴室は、やはり経過変化とお掃除などのメンテナンスが心配だと思ふ方も多いと思います。コロラボでは耐水性に優れた木材を使用することに加え、引渡しの際に守っていただきたい2つのルールをお話しています。

## 綺麗に保つための2つのルール

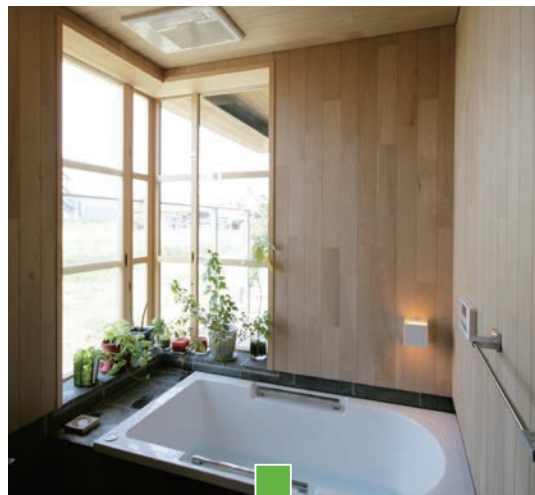


毎日、最後に浴槽に入った人は石鹸やシャンプーが飛び散った壁を固く絞った布巾などで拭いて出ること。シャワーなどで流すと余分な水分を木に与えてしまいカビの原因となる。



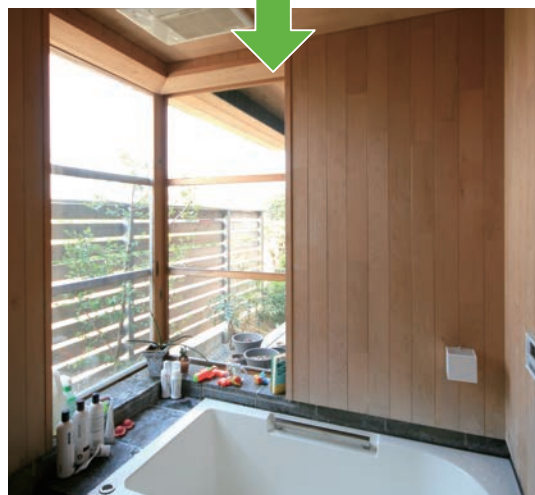
浴槽内にお湯が溜まっているときは必ず蓋をすること。交代などの短い時間は大丈夫だが、朝まで蓋をせずそのまま放置するのは厳禁。

## 壁・天井板の経年変化の様子



新築時

『ひとつの家』新築時の浴室。壁と天井の青森ヒバが新しく、肌色のような色合いが特徴。コーナー窓に置かれた植物が華やかさを感じさせてくれています。



4年後

青森ヒバは肌色から少しオレンジ味のある茶色に変化している。浴槽付近の板は少し白く焼けているのが見てわかるが、天井や壁が傷んでいる様子はなく、健全な状態が保たれている。

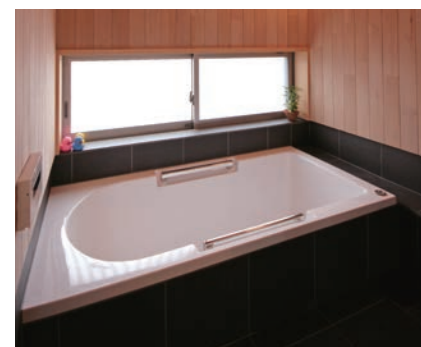
## 木のお風呂を彩るアイテム

優しい木目と木の香りに包まれたお風呂は心身共に安らぐ空間ですが、より快適な時間を過ごすためには浴槽をはじめ、水栓などの設備も大切です。木のお風呂を彩るアイテムと題して、コロラボで製作した木のお風呂の中から主な設備品をご紹介します。



浴槽

コロラボで使用する多くの浴槽は主に3タイプ。1400×750の大きさで人工大理石素材の楕円形タイプは最もスタンダードな浴槽。標準の排水金具が鎖チェーンですがポップアップ式に変更も可能です。ひと回り大きなタイプは1500×800サイズ。デザインもシンプルで浴槽内に手摺が設置されています。素材にこだわるならホーロータイプ。国産メーカーからも発売されていますが人工大理石に比べて大幅にコストアップ。輸入品のホーロー浴槽にひと手間加えて使用することもあります。



水栓

形状や素材、デザインなど、様々なタイプありますが、コロラボでは吐水口の無いシャワー水栓をよく使います。



浴室 暖房機

換気や暖房、衣類乾燥に活躍する設備機器ですが、木のお風呂を綺麗に保つアイテムとしても採用しています。



タイル

床には冷えにくいサーモタイルを採用。ユニットバスには及ばないが、通常のタイルに比べると格段と違う。

## ルールは2つ。綺麗で長持ちの秘訣

今回様々な木のお風呂についてご紹介してきましたが、やはり気になるのは経年変化とメンテナンスだと思います。綺麗に保つために、毎日のお掃除や定期的なメンテナンスが大変なのは？と感じている方も多いと思いますが、引き渡し時にお話するルールは2つだけ。これだけを守っていただき、天気の良い日に窓を開けて換気をし、大掃除では天井や壁を拭いたりすれば大きな問題はありません。木は水分の吸収・放出を繰り返しているため、浴室内の湿度も適度に吸収し、壁や天井は木自身の性能で換気扇の役割も果たしています。しかし、過剰な水分や石鹸カスなどでカビを誘発することもあるので、換気扇との併用も必要ですが、思った以上に手軽な手入れで綺麗に保つ事が出来ると驚きになると思います。木のお風呂は正しい木材の選択や防水などの処置、そして住まい手にお願するちょっとしたルールで綺麗で長持ちする木のお風呂をつくる事ができます。コロラボでは浴室のリフォームで『木のお風呂』をつくることも出来るので、まずは気軽にご相談してください。きつとお風呂時間が今まで以上に楽しくなると思います。

## 木のお風呂を彩るアイテム

木の壁や天井に加えてタイルの大きさや色の他、使い勝手や好みに合わせていくためには設備品も重要です。一番気になるのはやはり浴槽で、各メーカーから様々なタイプの浴槽がラインナップされています。コロラボでは主に3種類の浴槽を使うことが多く、それぞれ形状や素材などの特徴があります。もつとも多く採用しているのは人工大理石でつくられた楕円形の浴槽タイプ。スマートな形でシンプルな浴室が出来上がります。少し贅沢な雰囲気味わいたい方には、形状がひと回り大きなタイプをおすすめしています。浴槽自体に手摺が設けられ、形状や色合いもデザインされているのが特徴です。素材にこだわりたい方はホーローの浴槽はいかがでしょう。ホーローは表面の耐久性があり、汚れを簡単に落とすことができます。浴槽の他にシャワー水栓にも様々な形状があり、使い勝手に合わせた形状と高さの検討が必要です。コロラボでは吐水口の無い水栓を使うことも多く、タイルでつくるカウンターの高さも合わせて使い勝手を確認しながら設置していきます。各メーカーから多彩な形状の浴槽や水栓が発売され、形状などにこだわる方も少なくありません。『木のお風呂』を彩るアイテムとして楽しみながら選んでいただきたいと思ひます。